

〔出資法人の自主性・自律性の向上に向けた取組〕

経営基盤の充実・強化

- ・19年度の県内経済は、全体としては緩やかな回復基調が続く中、原油及び原材料高の影響を受けている製造業や公共投資の抑制等の影響を受けている建設業など、多くの中小企業において厳しい経営環境が続いており、20年度においても、世界経済の低迷等、昨年度以上に厳しい状況が続いている。
- ・このような中、当法人の保証面では、中小企業の経営を金融から支援するため、19年4月から新商品として「無担保借入金集約化保証（フォーカス）」を創設し、積極的に保証に努めたため、上期は大幅な伸長を示したが、下期には倒産の多発や景気の下振れによる資金需要の低迷から保証が伸び悩み、全体として、保証承諾額は111,461百万円（対前年度比1.7%減）、保証債務残高は205,741百万円（対前年度比4.6%減）と減少するとともに、代位弁済については建設業を主体に企業倒産が多発した結果、5,496百万円（対前年度比78.7%増）と大きく前年度を上回っている。その結果、当期収支差額は前年度比で148百万円減とはなったものの、337百万円を計上している。
- ・収入増加に向けた取組みとしては、金融機関との連携強化による保証利用の促進、中小企業団体等との連携強化や積極的な広報活動による保証利用企業者数の増加、現地調査の機会増大や積極的な研修会の実施等による目利き職員の養成、企業ニーズに応じた協会独自商品の開発（20年10月には、県内各金融機関と提携し、各金融機関の企業評価査定を活用した迅速融資が特長の「中小企業金融円滑化保証（スムーズ8000）」を独自商品として開発）など、9つの具体的方策を定め、より一層保証の推進を進めているところであり、その取組みは評価できる。
- ・20年度以降の経済動向を見ると、金融危機による世界的な株価下落や急激な円高を背景に一段と厳しさを増しており、中小・零細企業の資金繰りの悪化が懸念されている中で、当協会は中小企業にとって資金調達の「最後の砦」となるべく、その役割を十分に果たしていただきたい。
- ・また、中小企業金融をはじめとする多様なニーズに的確に答え、地域経済の発展に寄与するとともに、一層の顧客サービスの充実を図っていく取組みを継続していくため、1次評価にもあるように「顔の見える協会」に向けた取組みとして企業訪問や企業との直接面談など保証申込者との関係強化を図るとともに「顧客満足度向上」を目指して取組んでいただきたい。

【収入増加に向けた取組み】

- ・金融機関との連携強化による保証利用の促進
 - ・中小企業団体等との連携強化や積極的な広報活動による保証利用企業者の増加
 - ・現地調査の機会増大や積極的な研修会の実施等による目利き職員の養成
 - ・企業ニーズに応じた協会独自商品の開発（20年10月には、県内各金融機関と提携し、各金融機関の企業評価査定を活用した迅速融資が特長の「中小企業金融円滑化保証（スムーズ8000）」を独自商品として開発）
- など、計9つの具体的方策を定め、より一層の保証を推進

〔経営情報等の積極的な開示に向けた取組〕

- ・昨年度2次評価を受けて、20年6月より自社ホームページにおいて決算書を公表している。
- ・18年度から3か年(18年度～20年度)の中期経営計画を策定するとともに、計画実施の外部評価を19年度から実施し、その結果をホームページに公表している。なお、次期中期計画(21年度～23年度)を20年度中に策定予定とのことであるが、その内容を踏まえて、本改革実施計画も見直していただきたい。

〔総合的評価〕

- ・今後とも中小企業金融をはじめとする多様なニーズに的確に応え、地域経済の発展に寄与していくため、1次評価にもあるように「顔の見える協会」に向けた取組みとして保証申込者との関係強化を図るとともに「顧客満足度向上」を目指して取組むこと。
- ・20年度以降の経済動向を見ると、金融危機による世界的な株価下落や急激な円高を背景に一段と厳しさを増しており、中小・零細企業の資金繰りの悪化が懸念されている中で、中小企業にとって資金調達の「最後の砦」となるべく、その役割を十分に果たすこと。